

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

4月19日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。調査結果を分析しましたのでお知らせします。

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この調査は小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。

内容は教科に関する調査（国語 算数・数学 理科）と質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）です。

市内小中学校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るよう努めています。



1 教科に関する調査（国語 算数・数学 理科）について

（1）全体の結果と状況 指導改善のポイント

	市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	県とほぼ同等	県とほぼ同等
算数・数学	県とほぼ同等	県とほぼ同等
理科	県とほぼ同等	県とほぼ同等

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているのです、それに従って表記しています。

《 小学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

○話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできている。

○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることはできている。

○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはできている。

●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。

●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。

●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。



○指導改善のポイント

- ・学校生活の中で話し合いの機会をより多く設定していくことが大切である。話し合いの目的や方向性を検討する場面を設定したり、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理する方法を指導したりすることが効果的である。
- ・文や文章を推敲することを授業の中で継続して指導していくことが大切である。推敲する際には相手や目的を明確にして児童自らが推敲する必要性を実感して書くことができる言語活動を設定したり、表記の仕方や使い方に関する指導事項と関連を図って指導したりすることが大切である。

《 小学校 算数 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはできている。
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することはできている。
- 百分率で表された割合を分数で表すことはできている。
- 図形を構成する要素に着目して、長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。
- 示された場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。
- 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。

○指導改善のポイント

- ・割合を用いて問題を解決するためには、基準量、比較量、割合の関係について理解し、数学的に表現・処理できるようにすることが重要である。日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導することが大切である。
- ・図形の意味や性質について理解し、それを基に図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。その際、辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるように指導することが大切である。

《 小学校 理科 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- ナナホシテントウに関する問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決の道筋を構想することはできている。
- 指示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことはできている。
- 天気と気温の変化を観察した結果を、分析して、解釈し、問題に正対した結論を導きだすことはできている。
- 砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見だし記述することに課題がある。
- 日光が直進するといった光の性質について理解することに課題がある。
- 缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を分析して解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて結論の根拠を記述することに課題がある。
- 冬の数日間の天気と気温について整理した資料を分析して、解釈し、冬の晴れた夜を示す部分を読み取ることに課題がある。

○指導改善のポイント

- ・結果などから結論を導きだすために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定することが大切である。
- ・問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することが大切である。タブレット型端末などで動画や写真などを示し指さしたり線で囲んだりしながら、説明しあうといった活動を行うことも大切である。

《 中学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- 文脈に即して漢字を正しく書くことはできている。
- 事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解することはできている。
- 引用の仕方や出典の示し方について理解し、書く活動の中で使うことに課題がある。
- 文章の中で用いられている表現の技法について理解することに課題がある。
- 行書の特徴を理解することに課題がある。



○指導改善のポイント

- ・引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、言語活動の中で使うことができるようにすることが必要である。そのために、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかぎかっこ（「」）でくくることが、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。
- ・楷書だけではなく、行書の基礎的な書き方を身に付けることが必要である。そのために、「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことができるように指導することが大切である。

《 中学校 数学 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

- 簡単な連立方程式を解くことはできている。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解することはできている。
- 一次関数の変化の割合の意味の理解に課題がある。
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。



○指導改善のポイント

- ・変化の割合の意味を理解するために、伴って変わる二つの数量の変化の特徴を捉える活動を重視することが大切である。その際、変化の割合は「 y の増加量」÷「 x の増加量」で求められることだけでなく、 x の増加量が1のときの y の増加量であると捉えることができるようにすることが大切である。

- ・結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実することが大切である。
- ・結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりするなど、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実することが大切である。

《 中学校 理科 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

○変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできている。

○分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことはできている。

○節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することはできている。

●他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。

●化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、分析して解釈することに課題がある。

●力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明することはできているが、矢印で表すことに課題がある。

●ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈し、主として時間的・空間的な視点で捉えることに課題がある。

○指導改善のポイント

・ICT機器などを活用して、原子や分子のモデルを用いて可視化することで、原子や分子のモデルを基に化学変化を化学反応式で表す活動を繰り返し行うことが大切である。

・物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表す学習場面を設定することは大切である。教室内の風景をタブレット型端末で撮影し、画像の中からつり合っている力を見だし、物体に働く力を矢印で表すなどの学習活動を充実することが大切である。

・地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから捉えて空間として認識するなどして、分析して解釈することが大切である。例えば、地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がりや傾きを考える学習場面を設定することが大切である。

(2) 評価の観点と問題形式、無回答について

評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」、問題形式は「選択式」「短答式」「記述式」となっています。

評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」の問題において、苦手傾向があり、また無回答率が高い傾向があります。(これは県内・全国的にも同様の傾向です)

無回答率が高かったのは、小学校国語では「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」「漢字を文の中で正しく使う」「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」問題です。

小学校算数では「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる」「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」問題です。

小学校理科では「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「メスシリンダーという器具を理解している」問題です。

中学校国語では「自分の考えが分りやすく伝わるように表現を工夫して話す」「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する」「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題です。

中学校数学では「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」問題です。

中学校理科では「考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる」「予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察・実験の操作や条件の制御などの探求の方法について検討し、探求の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる」「アリの行列の作り方を探求する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる」問題です。

(3) 今後の取組

低学年から図鑑や本に親しみ、新聞等の図や表を比べて自身の意見をもち、発信する活動を行うことが大切です。算数・数学においても式・表・グラフ等を書くだけでなく、口頭で説明する対話的な授業、文字で書き表す活動をより多く授業の中で行っていくことが大切です。



各校ともに、コロナ禍の影響により十分に行うことができなかった場面もありますが、学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等の授業改善を行っています。「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する（読書の時間等も含まれている）時間を設定してはいますが、その充実をなお一層図っていく必要があります。全般的に文章の読解力向上が課題となっています。

市内小中学校では、それぞれの課題を克服するための独自の取組があります。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようと努力しています。

2 児童生徒質問紙調査について

質問は9の項目（基本的生活習慣等 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等 学習習慣、学習環境等 地域や社会に関わる活動の状況等 I C Tを活用した学習状況 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳 学習に対する興味・関心や授業の理解度等、各教科に関する調査の解答状況）になっています。

(1) 全体の結果と状況および今後の取組

全部で75の質問がされていますが、主な項目について報告いたします。表の数値は、選択肢のうち「そう思う」「どちらかといえばそう思う」といった肯定的な回答を割合(%)として示しました。

《 基本的生活習慣 》

		市	県	差
(1) 朝食を毎日食べていますか。	小	95.3	95.9	-0.6
	中	91.3	93.1	-1.8

		市	県	差
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	小	78.9	85.1	-6.2
	中	75.7	81.8	-6.1

		市	県	差
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	小	89.0	92.1	-3.1
	中	87.3	93.1	-5.8



		市	県	差
(4) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。(2時間以上)	小	54.8	50.6	+4.2
	中	56.2	50.4	+5.8

		市	県	差
(5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。(ゲームする時間は除く)(2時間以上)	小	36.8	31.6	+5.2
	中	58.2	51.3	+6.9

生活状況では、「朝食の喫食」「就寝時刻」「起床時刻」という基本的生活習慣は、県平均と比較すると身に付いていない状況が見られます。基本的生活習慣は学力面や健康面等影響があると推察されます。保健体育の授業や食教育等で睡眠の重要性や食事をバランスよく摂ることを指導することが大切です。

文部科学省から、1日当たりのスマートフォンの利用状況と正答率との相関関係については小中学生ともSNS(ネット交流サービス)や動画視聴の時間が長いほど正答率が低くなるという結果が報告されています。



《 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感 》

		市	県	差
(6) 自分には、よいところがあると思いますか。	小	71.1	80.3	-9.2
	中	77.7	81.1	-3.4

		市	県	差
(7) 将来の夢や目標をもっていますか。	小	76.6	82.7	-6.1
	中	66.0	71.4	-5.4

		市	県	差
(8) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。	小	96.9	97.6	-0.7
	中	99.0	97.5	+1.5

		市	県	差
(9) 学校に行くのは楽しいと思いますか。	小	88.3	86.6	+1.7
	中	78.6	85.8	-7.2

「将来の夢や目標をもつ」と回答した割合は県平均と比較するとよくない状況が見られます。児童生徒が自身のよさに気づきいろいろな可能性があることを感じる事が大切です。世の中には多くの仕事があることを伝え、将来の夢や希望を見つけ、それをかなえるために、これからの目標を明らかにして目標に向かっていくような機会をより多く設けていきたいと考えます。

自尊感情や自己肯定感をもつことは、自信につながり、安定した生活を送ったり学習への意欲をもったりするためには、不可欠のことです。これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。中学3年生は、思春期を迎えるとともに中学卒業後の進路選択も控えており不安定な時期であることが予想されます。日頃の授業や行事等の特別活動等、学校生活の全体で、中学生の自尊感情を高める指導をさらに意識して行っていく必要があります。さまざまな場面で自信をもたせ、素直に夢や目標をもつことができ、それを応援してくれる家庭・学校・地域の安定した教育環境づくりが、なお必要になっていると言えます。



いじめはどんな理由があってもいけないという肯定的回答がほとんどです。県平均とほぼ同等です。これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所であらゆる機会をとらえて、あらゆる人々が、あらゆる形で指導してきた賜物だと思います。ただ、「いじめ」を肯定している児童生徒が若干名いることから、今後もこのことの指導を丹念にきちんと、そして速やかに行うことを続けていく必要があります。

《 学習習慣、学習環境 》

(10) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)		市	県	差
	小	64.1	73.8	-9.7
	中	60.2	63.1	-2.9

ここ数年取り組んでいる県及び本市の「家庭学習推進」の成果の表れがある程度見受けられますが、なお子どもたちの学力を定着させるためには、集中して机に向かう時間の長さの確保と質の向上を図る必要があります。



(11) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（塾・家庭教師等を含む） 小（1時間以上） 中（2時間以上）		市	県	差
	小	47.6	60.3	-12.7
	中	43.7	32.4	+11.3

月～金曜日の1日の勉強時間では、小学校6年生は「全くしない」の勉強時間が最も多くなっていて、この傾向は県や全国と同様です。小学生で1時間以上勉強している割合は県平均を下回っています。中学生で2時間以上勉強している割合はほぼ半数近くになります。

(12) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書・漫画や雑誌は除く） 小中（30分以上）		市	県	差
	小	36.0	38.7	-2.7
	中	35.9	31.5	+4.4

各学校では「朝の読書」等で全校的に読書活動に取り組んでいます。読書習慣は一生の財産となるので、読書意欲を高め、習慣づける取組をさらに進める必要があります。

(13) 新聞を読んでいますか。 (小中 週に1回から3回程度以上)		市	県	差
	小	13.3	14.0	-0.7
	中	7.8	11.1	-3.3

文部科学省から、「新聞を読む頻度が高い子どもの方が、平均正答率が高い」という結果が報告されています。新聞は、読解力、情報収集力、分析力、説明力、思考力、表現力等を培うのに格好の素材であり、今後工夫を加え、学力向上のための良い教材としていく必要があります。



学習習慣については、ここ数年、県の施策を受け、本市で家庭学習の充実を図ってきましたが、まだ十分ではありません。市内小中学校では、家庭学習の充実を図るために、「家庭学習システム」を決めたり、「生活記録表」「生活記録カード」「家庭学習の手引」や「家庭学習チェックシート」を活用したり、各自が自分の能力に合わせて家庭学習を行い、学年が進行するにしたがって自主的な学習に移行できるように工夫したり、「自主学習ノート」「家庭学習ノート」に取り組ませたりしています。さらに、本市では4年前より教育活動の支援の一つとして「チャレンジ大月っ子」の

取組を進めて学力の向上を図っています。また「家庭学習」だけでなく「家事労働」にも取り組むことで、「自己有用感」の醸成とともに生きた知識を学ぶことができることに取り組んでいます。

《 ICT を活用した学習 》

(14) 5年生まで(中1・2年生まで)に受けた授業で、PC タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。(小中 週1回以上)		市	県	差
	小	83.7	81.9	+1.8
	中	72.9	83.4	-10.5

令和元年度調査では(小・31.2%、中・6.2%であり、使用頻度が3年間で小2.6倍 中11.7倍になったことがわかります。大月市では各小中学校に於いて一昨年の11月から電子黒板、書画カメラ、昨年の4月から一人一台タブレット端末、Wi・Fi等の環境整備が順次行われており、授業で活用されています。これからも学校では効果的な場면을工夫し、より活用する機会を増やしていきたいと思います。



《 主体的・対話的で深い学び 》

(15) 5年生(1、2年生)までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表していましたか。		市	県	差
	小	65.7	67.2	-1.5
	中	67	68.4	-1.4

(16) 5年生(1、2年生)までに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいましたか。		市	県	差
	小	76.6	80.1	-3.5
	中	76.7	83.0	-6.3

(17) 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。		市	県	差
	小	79.7	82.4	-2.7
	中	78.7	81.2	-2.5

(18) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。		市	県	差
	小	81.3	82.3	-1.0
	中	70.9	79.4	-8.5

「自分の考えをしっかりと伝える」「工夫して発表する」ことに課題が見られ、授業はもちろん、朝の会等でも機会を多くし経験させていくことが大切です。小中学校の新学習指導要領で示されている「課題解決のために必要な情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理し把握する」「理由を明確にして、論理的に分かりやすく説明する」「知っていることやできることを他に転化させて使いながら、自分の考えを広げ深め、話し合い等の共同作業を行うことで、最適解を求める」等の力をなお高めていくことが求められています。



3 大月市教育委員会事業との関わりについて

令和4年度の大月市学校教育指導重点に於ける教育理念は「夢に向かい 共に学び 共に生きる」となっています。重点目標として「ふるさと教育」の推進等、また重点方針を「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健康・安全に関する資質や能力の育成」としています。

「ふるさと教育」については、子どもたちと大人たちが共に学ぶことを通して地域ぐるみで豊かな未来を創ること、子どもたちに地域のことは今もこれからもかわっていかうとする「当事者意識」を培い、生まれ育ったふるさと大月を次の世代にきちんと引き継いでいく責任を果たそうとする心を育んでいきたいと思っています。

今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）の場として学校単位で5日間の「大月サマースクール」を開催して学力の補充をしています。各校において多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。

また、「大月っ子学習サロン」を平日の放課後に実施し、日頃の学習課題に対応する取組が続けられています。これらの取組や、まだまだ改善の余地がある家庭学習の確立と充実に向けての取組を、各学校に引き続き働きかけて、本市の子どもたちの学力の向上を継続的に図り、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちを増やしていきたいと考えています。

各校で行っている「学力向上」を市内小中学校で共有できるよう、各校の支援をしていきたいと考えています。これからも、本市の子どもたちのよりよい成長のために、保護者及び地域住民の皆様から忌憚のない御意見をいただき、また温かく支えてくださいますようお願い申し上げます。

